

## 案件2 東松山市立市民病院の新棟建設について【事業発案段階】

参加事業者数：5社

参加事業者（業態）	主な対話内容
建設	支出を抑える取組として、駐車場の有料化（受益者負担）や駐車場用借地の返還、管理の機械化等でコスト削減を図ることも検討してはどうか。
建設	カフェや飲食店の単独独立採算は厳しく、サービス提供として病院が一定の財政負担を想定したほうがよい。
建設	既存の南棟を活用し、新棟の施設整備と維持管理を一体で行う。また余剰地などの活用も検討できると考えられる。
建設	PFI手法の場合、病院特有の委託業務は難しい面がある。また、SPC（特別目的会社）を立ち上げる場合には、ある程度のスケールメリットが必要となると考えられる。
設計	PPP/PFI手法の採用は可能と思われるが、そのためには民間収益施設（カフェ、コンビニ）を入れて、患者・付添い者の利便性を向上させる必要がある。

設計	仮に新棟整備の検討を進めていく場合には、市民の負担をいくらまで許容するのかという点を考える必要がある。また、別の事業で収入を増やしたり、機械化で人件費を下げたりするなど、抜本的にコストを下げることも検討していく必要があると考える。
建設	PFI手法の場合、設計・建設・維持管理の各部門で知恵を出し合いながら整備できるため、合理的でより良い施設整備につながる可能性がある。
建設	設計段階から施工者が技術協力という形で参画するECI方式では予算や施工性を加味した施工者側の知恵出しが可能なため、コスト削減の可能性がある。ただし、近年の建設費高騰を抑えるほどのメリットは難しい。
建設	建設業界の近況として、資材高騰や労務費の上昇が挙げられる。設計金額との乖離により不調になることも多い。
建設	ECI方式により、設計段階から建設会社が参画し、技術協力していく方法も検討の余地があると考ええる。